

池ノ下遺跡発掘調査報告書



調査区南側全景（北から）

2019

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯

姫路市町坪において宅地造成工事が計画された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である池ノ下遺跡（遺跡番号：020578）に位置する。池ノ下遺跡では、平成13年度から英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い継続的に発掘調査が行われている。周辺部の既往調査成果に基づき、工事による掘削が遺構面に影響を及ぼす擁壁設置箇所について本発掘調査を行うこととなった。平成30年（2018年）8月17日に事業者と姫路市が発掘調査委託契約を締結した。調査面積は27㎡、調査期間は9月6日から9月12日である。現地調査終了後は調査成果の整理作業を行い、本書の刊行をもって事業を完了した。

2. 調査の位置と周辺の歴史的環境

調査地は、夢前川下流左岸の苦福山以北に連なる荒川山塊の南部、夢前川の旧流路によって形成された沖積地に位置し、池ノ下遺跡全体で南北約550m、東西約750mを範囲とする。『播磨国風土記』によれば「伊和里」と呼ばれる地であり、遺跡周辺には糸里地割が現在でも残っている。周辺には平安時代から中世の集落である豆田遺跡や大浄口遺跡、村東遺跡が存在している。

池ノ下遺跡では、これまで遊離遺物であるが旧石器時代後期のナイフ形石器が出土している。縄文時代の遺物では流路から中期や晩期の土器が出土している他、石鏃や石匙なども出土している。弥生時代の遺構としては、前期の土坑や溝、中期の竪穴建物や溝、後期の溝などが検出されている。さらに、古墳時代初頭の掘立柱建物や流路、古墳時代中期から後期の流路や溝を確認している（兵庫県教育委員会2012、姫路市埋蔵文化財センター2015）。

調査地周辺では、区画整理道路部分の発掘調査の一部を兵庫県教育委員会が実施し、掘立柱建物跡や土坑、溝、ピットを検出している。遺構からは須恵器椀、土師器の皿や鍋が出土している（兵庫県教育委員会2012）。

3. 調査の成果

調査地の現況は休耕田であり標高約5.7mを測る。基本層序は、I層は耕土で厚さ約20～30cmを測る。II層は、造成土で厚さ約30～40cmを測る。III層が旧耕土の床土で厚さ約5cmを測る。IV層は、地山が土壌化した層であり、厚さ約5cmを測る。V層が地山で、本層の上面において溝（SD）を5条、ピット（SP）を8基確認した。遺構検出面の標高は約5.1mである。SD01は、調査区北側で検出した溝で南北幅約2m、深さ40cmを測る。SD02は、調査区北側で検出した。南北幅約1.8m、深さ50cmを測る。SD03は、調査区中央で検出した。南北幅約0.6m、深さ30cmを測る。SD04は、調査区南側で検出した。南北幅約2.0m、深さ20cmを測る。いずれの溝も調査区外に延びているが、今回の調査地は狭小であるため全容を確認できなかった。また、出土遺物がなく、遺構の時期を判断することはできなかった。

周辺での兵庫県教育委員会の調査成果に基づけば、今回の調査で確認された溝やピットは、中世の範疇に収まる可能性が高いと考えられる。

【引用・参考文献】

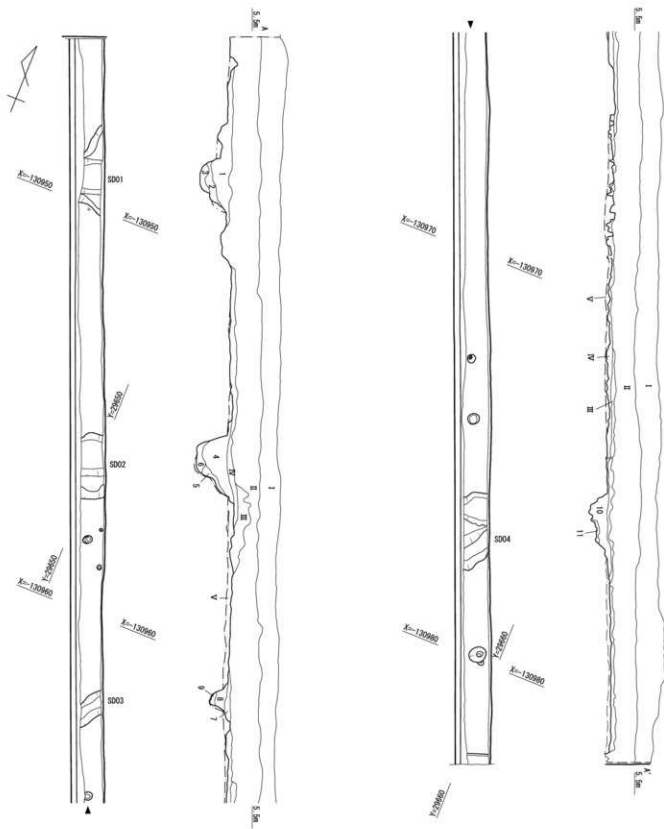
兵庫県教育委員会 2012 『池ノ下遺跡—中標都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
姫路市埋蔵文化財センター 2015 『TS1808R12015—姫路市埋蔵文化財総覧—』姫路市教育委員会



1. 原田遺跡
2. 山所遺跡
3. 山所南寺
4. 山所南遺跡
5. 山崎城跡
6. 村東遺跡
7. 辻内遺跡
8. 城田付城跡
9. 池ノ下遺跡
10. 大浄口遺跡
11. 豆田遺跡
12. 辻堂遺跡
13. 鹿谷遺跡
14. 出平遺跡
15. 横牧遺跡
16. 中ノ町遺跡
17. 大石橋遺跡
18. 東川遺跡
19. 石田遺跡
20. 法輪寺山遺跡
21. 村前遺跡
22. 町田遺跡
23. 土山遺跡
24. 八反長遺跡
25. 堂田遺跡
26. 千代田遺跡



図1 周辺の遺跡と調査地位置図 (S=1:50,000、S=1:1,000)



- I. 10YR3/1 黒褐色細砂 (粘土)
- II. 造成土
- III. 2.5Y6/4 に近い黄色極細砂 (旧耕土の床土)
- IV. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂混じりシルト
- V. 2.5Y7/2 灰黄色極細砂混じりシルト (地山)

- 1. 2.5Y5/1 黄灰色極細砂混じりシルト
- 2. 5Y3/1 オリーブ色極細砂混じりシルト
- 3. 2.5Y6/6 明黄褐色細砂から小礫
- 4. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
- 5. 2.5Y5/1 黄灰色シルトに 2.5Y6/6 明黄褐色シルトをブロック状に含む
- 6. 2.5Y4/1 黄灰色細砂から小礫
- 7. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
- 8. 2.5Y5/1 黄灰色シルトに 2.5Y6/6 明黄褐色シルトをブロック状に含む
- 9. 2.5Y4/2 灰オリーブ色極細砂混じりシルト
- 10. 2.5Y6/2 灰オリーブ色極細砂

図2 調査区平・断面図 (平面 S=1:100、断面 S=1:50)





写真1 調査区北側全景 (南から)



写真2 調査区東壁土層断面 (南東から)



写真3 SD04土層断面 (北西から)

報告書抄録

ふりがな	いけのしたいせきはくつちようさほうくしよ							
書名	池ノ下遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第82集							
編著者名	関 梓							
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター							
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1						TEL (079) 252-3950	
発行年月日	平成31年 (2019年) 3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いけのしたいせき 池ノ下遺跡	ひょうごけんひょうごしよのつち 兵庫県姫路市町坪 408番1他	28201	020578	34° 81' 90"	134° 65' 74"	2018.9.6 ～ 2018.9.12	27㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		遺跡調査番号		
池ノ下遺跡	集落跡	中世	溝・ピット	なし		20180214		

例言

- 本書は、姫路市町坪に存在する池ノ下遺跡 (国史跡番号 02676) の発掘調査報告書である。
- 発掘調査は、姫路市町坪字土居ノ内 408 番 1 他における宅地造成工事に伴い、事業者と委託契約を締結し、姫路市教育委員会が実施した。
- 本報告における調査の記録は、姫路市埋蔵文化財センターで保管している。

凡例

- 発掘調査で行った測量は、世界測地系 (国測法第 200) に準拠する平面図法内角測量第 1 系を基準とし、数値は 2m 単位で表示している。
- 本書で用いる標高は、東京湾平均海面 (C.P.) を基準とし、使用する方位は世界測地系の座標北である。
- 本書に掲載した地形図は、国土院図記発行の 2 万 5 千分の 1 地形図 (姫路北側・姫路市南側) および国測院基本地形図を使用した。
- 土層の色調については、小川正志・竹原秀雄編 2003『新版 標準土色鑑 25 版』日本色研株式会社に準拠した。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第82集

池ノ下遺跡発掘調査報告書

編 集 姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1
発 行 姫路市教育委員会
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地
発 行 日 平成31年 (2019年) 3月31日
印刷・製本 松尾印刷株式会社
〒671-0222 兵庫県姫路市別所町小林494番地